

第2回審議会資料に係る審議会委員意見書の 取りまとめ結果報告書

【第3次伊勢崎市総合計画長期ビジョン（基本構想）（素案）意見書】

1. 将来ビジョン（案）への意見・・・・・・・・ 1ページ
2. 将来ビジョン（案）以外への意見・・・・ 5ページ

1. 将来ビジョン（案）への意見

○将来ビジョン（案）の選択結果について

No1. 「えがお咲く未来へ 持続可能な共生都市 いせさき」が最も多く選択されました。

No.	将来ビジョン（案）	案の説明	選択数
1	えがお咲く未来へ 持続可能な共生都市 いせさき	互いの違いを認めあい、皆が笑顔になれる共生社会を、未来にわたって持続していくえがお咲く…市のキャッチフレーズ「いせ咲く」からの連想	6
2	共に創り 共に育む みんなで輝く 元気なまち いせさき	共に創り 共に育む…様々な世代、地域、文化の人たちが互いに認め合い、支え合う みんなで輝く 元気なまち…多様な市民が活躍できる、賑わいのあるまちを目指す	5
3-1	いせさきの そのさきへ	GX、DX などへ新たな取り組みを続け、伊勢崎市は、時代を見据え、常に、その一歩先を進んでいく	5
3-2	より住みよいまちへ変革 伊勢崎の そのさきへ	より住みよいまちへ、伊勢崎市は、GX、DX などへ新たな取り組みを続け、SDGs の目標を達成し、常に、変革し、時代の一歩先を進んでいく	2
4	誰一人取り残さない 笑顔で支え合うまち いせさき	様々な世代、地域、文化の人たちが互いに認め合い、支え合うことで誰一人取り残すことのない共生社会の実現を目指す	1

○将来ビジョン（案）に対する意見について

将来ビジョン（案）ごとに、次のとおりご意見をいただきました。

No.1 《えがお咲く未来へ 持続可能な共生都市 いせさき》に対するご意見
表情が現れていて良い。「咲」が漢字で花が咲く意が込められポジティブで華やかな印象を受けた。読み上げても言葉の運びが心地よい。共生の「生」の字も生活、生まれる、という輝く命のイメージと支え合う社会のイメージがある。
共生、SDGs、D X・G Xは相反する概念ではないので、すべて将来ビジョン No. 1 に盛り込んでも良いのではないかと。
将来ビジョンは、基本構想の顔となる部分であり、職員のみならず全ての市民が、このビジョンを共有し目指していくもの。そのため、①わかりやすい表現、②ある程度具体的なイメージが連想される、③自分事として共感できる、ことが大切だと思う。 その点から、「持続可能」と「共生都市」の表現が硬く、市民の方々にはなじみも薄く、ピンとこない語句ではないか。この2つをもう少しかみ砕いたものに置き換えられると「えがお咲く未来へ」と「いせさき」とのバランスも取れてなじみやすくなると思う。 このビジョンのフレーズが「自分事」として心に入り、誰もが共感できるものであれば、これを見た人が身近に感じてくれるのではないかと。 例えば「ひとりひとりの夢を みんなで育てる えがお咲くまち いせさき」 （夢は、「日本人、外国人、老若男女、誰ひとり分け隔てなくみんなが持っているもの」で、その夢をひとりで頑張るのではなくて「みんなで時間をかけて協力して育てていこう」という、未来へ向かって共に協力し合い、その先に「えがお咲くまちいせさき」がある、という意味）

<p>No.2 《共に創り 共に育む みんなで輝く 元気なまち いせさき》に対するご意見</p>
<p>「元気なまち」を「活力あるまち」にした方が相応しいと考える。 ビジョンでは、ミッションを果たすためのあるべき姿をいうのであるから、状態を示すのではなく、能動的な行動規範が問われるものと思う。積極的な姿勢を示すのが良いと考える。</p>
<p>外国籍の市民、すべての年齢層に分かりやすい表現である。他人事はなく、役所任せではなく、市民が主体となって伊勢崎市を活力あるまちにしていこうという姿勢が明確に打ち出されている。「共に創り共に育む」の言葉は市民の自主性が表出されており、「みんなで輝く」の表現では「みんなが」ではなく、「みんなで」としたところに一体感を持って進めていこうという気持ちが強く感じられる。</p>
<p>「元気なまち」だけで、「多様な市民が活躍できる、賑わいのあるまち」が表現できるので、「みんなで輝く」は削っていいように思う。</p>
<p>No.3-1 《いせさきの そのさきへ》に対するご意見</p>
<p>わかりやすくシンプルで、言いたいことを市民がイメージしやすい。</p>
<p>「いせさきの そのさきへ」という表現は、期待を感じさせる表現であると思う。説明にもあるように、時代の一步先を進む姿勢が感じられることから、3-1 あるいは 3-2 が適切と考える。</p>
<p>具体性に乏しい。</p>
<p>No.4 《誰一人取り残さない 笑顔で 支え合うまち いせさき》に対するご意見</p>
<p>「誰一人取り残さない」は、今いる人だけにとどまらない、ということの意味していると理解する。外国から来た人、隣の市から越してきた人、学校を卒業してまだ間もない人、障害を持った人も含むことになる。そういった「覚悟」はあるのか。</p>
<p>やや上から目線の印象。</p>

○将来ビジョンの事務局案について

いただいたご意見をもとに、下記を将来ビジョンの事務局案としましたのでお諮りします。

将来ビジョン 事務局案
えがお咲く未来へ 持続可能な共生都市 いせさき

○将来ビジョン案の説明について

将来ビジョンの案の説明を次のとおり修正しました。

修正前（第2回審議会）	修正後（第3回審議会）
<p>互いの違いを認めあい、皆が笑顔になれる共生社会を、未来にわたって持続していく</p> <p>えがお咲く・・・市のキャッチフレーズ「いせ咲く」からの連想</p>	<p><えがお咲く未来へ></p> <p>伊勢崎市は、山々の眺望、豊かな大地、川の流りに抱かれた自然環境を礎に、革新的な養蚕と絹織物技術を生み出し、日本の近代化を牽引してきました。</p> <p>こうした偉大なる先人の知恵が引き継がれ、四季折々の花が咲くように、豊かな農業、活発な商業、力強い工業などの特色ある産業が開花しています。</p> <p>将来の伊勢崎市は、ここに暮らす誰もが、自己の可能性を生かし、共に歩み手を取り合い、それぞれが幸せの笑顔を咲かせ、さらに活力あるウェルビーイングな未来を創っています。</p> <p><持続可能な共生都市></p> <p>国籍、文化、世代、障害、地域など、多様性のある地域社会が構成されています。</p> <p>将来の伊勢崎市は、次世代に引き継ぐ豊かな自然環境と、分け隔てなくお互いを尊重し支え合えるインクルーシブ社会の実現に向けて、本市に関わる全ての人々が最先端の技術を駆使して自らを変革し続け、持続可能な共生都市を創っています。</p> <p>「えがお咲く未来へ 持続可能な共生都市 いせさき」を目指して、私たちはこれからの伊勢崎市を紡いでいきます。</p>

2. 将来ビジョン（案）以外への意見

提出されたご意見等の要旨とそれに対する市の考え方については次のとおりです。

No.	該当ページ	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方	担当部課
1	全体	市民アンケートで若者の意見が少ない。545件の回答数は、20万市民に対する代表するに足り得る割合であるとの説明であったが、回答者の46.5%が60歳以上で、若者（18～29歳）は7%（38件）である。	一般的に統計学上有意と考えられるために必要な回答数を上回っているため、市民アンケートの結果は市民全体の意識や実態を把握するに十分有効であると考えております。今後も引き続き、市政運営に生かすため、若者を含め、多くの方々の御意見をいただけるよう努めてまいります。	企画部 企画調整課
2	全体	外国人の意見数が少ない。外国人が多い（資料3の6ページ）とのことだが、多文化共生キーパーソンの6名からの回答のみなのか。さまざまな状況や背景がある外国人の意見等を聞き、取り入れることが必要であると考え。また、日系の人と、出稼ぎにきている人との考え方に大いに差があると実感している。それらを加味し区分した回答を数多く拾い集める「伊勢崎」であって欲しい。	多文化共生キーパーソンは、本市に居住する外国人のうち、人口割合の高い国籍で日本語も話せる方で、かつ、その国籍の外国人のネットワークの中心的人物に担っていただいております。このため、これらの方に将来のまちづくりに対する意見を聴くためのヒアリングを実施したものです。普段から行政に関わりのある多文化共生キーパーソンの方であり、それぞれの国の外国人の声を代弁する意見が聴取できたものと考えておりますが、今後、同様の機会がある場合には、更に多数の国籍及び外国人からの意見を集約できるよう、御指摘の意見を生かしてまいります。また、市長懇話会においては、外国人向けの日本語教室を開催する団体からも意見を聴取しており、こちらについても総合計画の長期ビジョン（基本構想）及びアクションプランの策定に活用してまいります。	企画部 企画調整課 市民部 国際課
3	全体	ビジョンでゴールがあるが今後数値目標等を設定するのか？	数値目標等は、今後検討するアクションプランにおいて、各施策毎に設定する予定です。	企画部 企画調整課

No.	該当ページ	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方	担当部課
4	P3 ほか	「障害」という表記が気になる。最近、「害」という表記を避けて、「障がい」という表記にしていることが多く見られる。市としての統一しているのであれば問題ない。	本市では、国の法律においても「障害者」が用いられているように、障害者福祉に関する部署や計画において「障害者」という表現を用いることとしています。	福祉子ども部 障害福祉課
5	P9 子育て・教育	「経済的理由」、「仕事との両立」、「生活や趣味の問題」が子どもを持ちたくない理由にあがっているが、そう思ってしまう高校生・大学生の真の理由は何なのか？さらにもっと深掘りして真の理由や背景、環境を知る必要があると思う。経済的理由によって子どもを持ちたくない真の理由、仕事を両立するための家族ぐるみの子育ての仕組みを国や県に先駆けて検討できないか、子育てよりも趣味を優先する世代に対して家族の良さを認識していただく方策など検討できないか。 (3つの意見を要約)	高校生・大学生アンケートにおける回答者のうち62.1%は「子どもを持ちたい」と回答し、10.2%が「子どもを持ちたくない」との回答でした。子どもを持ちたくない理由に対応した施策の検討のために、各理由を聴いたものであり、この結果として「経済的な理由」、「子育てと仕事の両立」、「自分や夫婦の生活や趣味を大切にすること」の順となりました。これらを少しでも緩和する施策を国、県とともに検討していくことが必要と考えており、アクションプランにおける施策の検討に生かしてまいります。	企画部 企画調整課 福祉子ども部 子育て支援課
6	P9 子育て・教育	「子どもの居場所づくり」や「様々な世代が参加できる社会」に関しては、組み合わせる価値があるものと思う。世代を超えた人たち、あるいはいろいろな国から来た人たちとふれあう場、安心して集える居場所を設けることによって、お互いの理解を深める活動、そこから生まれる絆が生まれるものとする。	伊勢崎市としてのミッションには、「理想の共生社会の実現」を掲げ、またバリューにおいても「尊重による共生」を掲げ、子育て・教育分野のみならず、本市における真の共生社会の実現を目指して取り組んでまいります。	福祉子ども部 子育て支援課 長寿社会部 高齢政策課 市民部 国際課
7	P9 子育て・教育	子どもを持ちたくない理由として「経済的理由」、「仕事との両立」、「生活や趣味の問題」が挙げられているが、親も親戚も近所もある中で不安要素があるのは気の毒（甘え）だと思う。外国人は見知らぬ土地で、親戚も地域とのつながりもなく、雇用条件も良いとは言えない中で共働きをしながら子育てもしている。 こうした人たちとの対話や交流の場をつくる	高校生・大学生アンケートにおける回答者のうち62.1%は「子どもを持ちたい」と回答し、10.2%が「子どもを持ちたくない」との回答でした。子どもを持ちたくない理由に対応した施策の推進のために、各理由を聴いたものであり、この結果として「経済的な理由」、「子育てと仕事の両立」、「自分や夫婦の生活や趣味を大切にすること」の順となりました。	福祉子ども部 子育て支援課 市民部 国際課

No.	該当ページ	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方	担当部課
		<p>ことで、考え方や生き方の参考になるのではないかと思う。</p>	<p>これらを少しでも緩和する施策を国、県とともに検討していくことが必要と考えております。</p> <p>いただいた御意見は貴重なものであります。更なる外国人との共生を実現するための対話、交流の場をつくることを通じて真の共生社会の実現を目指してまいります。</p>	
8	<p>P9、 10 子育て・教育 健康・福祉</p>	<p>外国人にとっても、「子供を産み、育てやすい伊勢崎」というイメージは、外国人の定住化、さらに「共生・共創地域の構築」という視点でも重要なことであり、9ページ「子育て・教育」の中に、「外国人」という言葉が出てこないことは残念である。</p> <p>また、10ページ「健康・福祉」にも関わることであるが、当地域における COVID-19 感染拡大の一要因として、この外国人の問題がある。彼らの衛生教育の普及は今後の新興感染症の流行を考慮しても重要と思われる。</p>	<p>子育て・教育分野においては、外国人を特別視することなく、日本人と同様に同じ扱いで政策を推進する方針です。</p> <p>なお、今般のコロナ禍における課題については、衛生教育だけでなく将来の教訓として引継ぎ、改善に努めてまいります。</p>	<p>企画部 企画調整課</p> <p>市民部 国際課</p> <p>健康推進部 健康づくり課 健康管理センター</p> <p>福祉子ども部 子育て支援課</p>
9	<p>P10 健康・福祉</p>	<p>「高齢者や障害者を大切にす・優しい」という言葉は響きは良いが、やはり、彼らに対しての高みからの支配（「してあげる」という姿勢）が垣間見え、これらの言葉は“共生”には似つかわしくない。求められているのは、「彼らのために」から「彼らとともに」というパラダイムシフトである。</p>	<p>高齢者、障害者と言った社会的弱者への配慮の視点からの表現となっておりますが、真の共生社会の実現に向けて皆で取り組んで、分け隔てなく、特別な配慮さえ不要になる社会構造となるようなパラダイムシフトを目指してまいります。</p>	<p>福祉子ども部 障害福祉課</p> <p>長寿社会部 高齢政策課</p>

No.	該当ページ	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方	担当部課
10	P10 健康・福祉	<p>病院数や夜間対応には安心感がある。健康診断についても集団検診だけでなく、個人のかかりつけ医などで自分の都合の良い日に受診することもできる上、がん検診なども安価で受けられることは評価できる。</p> <p>また、介護予防につなげるための「ミニデイ」や「サロン」など、地域団体に対する補助金等の支給も細やかではあるがゴール2の4つの政策に適ったものだと言えると思う。</p>	<p>いずれの御意見も、現状の施策及び事業に対する評価をいただいたものですが、高齢者が増え続ける中で、健康、福祉、医療は益々重要度を増してまいります。アクションプランにおける施策の検討に生かしてまいります。</p>	<p>健康推進部 健康づくり課</p> <p>長寿社会部 高齢政策課 地域包括支援センター</p>
11	P10 健康・福祉	<p>高校生・大学生が、伊勢崎市に住みやすい理由として、医療・福祉関係をあげている人が少ないのは、医療・福祉供給体制の問題もあるが、彼らが我がこととして、医療・福祉の問題を考えていないことも影響しているのではないだろうか。若い人たちが我がこととして考えることができるような仕掛けも必要で、“教育”（とりわけ、初等教育）の意味は大きい。</p> <p>小児医療と産科医療の問題は、それらを担う医師（開業医）の高齢化に伴い、深刻な問題となりつつある。「移住定住の促進と関係人口の創出・拡大」を考えたときに、『子供を産み、育てやすい伊勢崎』というイメージは他の地域からの移住を促進するものと思われる。小児医療・産科医療に行政の力点をに入れていただくことが肝要と思われる。</p>	<p>御指摘のように、今や当たり前のように享受できる医療・福祉の環境が充実しているありがたいさが、高校生・大学生の考えにつながっているかどうかは定かではありませんが、医療・福祉に対する教育は重要であると考えます。</p> <p>開業医の高齢化、移住定住策の観点からの小児医療、産科医療の確保は大変貴重な御意見でありますので、アクションプランにおける施策の検討に生かしてまいります。</p>	<p>健康推進部 健康づくり課</p> <p>教育部 総務課 学校教育課</p>
12	P12 まちづくり	<p>都市基盤の整備、公共交通の充実が望まれている。</p> <p>車移動での利便性の良さが意見としてあがっているが、それには車を利用できる人は生活しやすいがそうでない人は不便だという実情も伺える。</p> <p>公共交通の充実を図り、車優先社会を見直す必要を感じる。</p>	<p>公共交通ネットワークの構築は重要課題であると考えます。公共交通は「まちづくり」の政策における力点を置く施策の1つと位置付け、アクションプランにおける施策の検討に生かしてまいります。</p>	<p>都市計画部 交通政策課</p>

No.	該当ページ	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方	担当部課
13	P13 安心安全	<p>ゴール1～ゴール6までは、基本的には市民の姿が描かれています。ゴール5のみ「つよくてしなやかなまち」という表現で終わっており、市民の姿ではなく、まちの姿が示されています。「一人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らすことができるまち」として、市民の姿を表現するに留めておいてもよいかと思う。</p>	<p>御指摘のとおり、他の政策のゴールとバランスを取るため、市民の姿を描く表現として、「一人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らせるまち」に変更しました。</p>	<p>企画部 企画調整課</p>
		<p>上記意見を踏まえて、以下のとおり変更しました。</p> <p>【変更前】（第2回審議会） ○政策のゴール5 一人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らすことができる強くてしなやかなまち</p>	<p>【変更後】（第3回審議会） ○政策のゴール5 一人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らせるまち</p>	<p>企画部 企画調整課</p>
14	P14 環境	<p>他市と比較してプラスチックゴミの回収は早い時期にスタートしたと思う。資源ごみについて、〇〇は□に再生されるなどの情報を詳しく発信することで、市民が積極的に区分けする意欲を持つと思う。</p> <p>情報は発信してあるから・・・というものではなく、見落とした人もいるでしょうし、目的の変化もあると思います。</p> <p>太陽光発電については、買取価格が低減したことにより、新規設置件数も少なくなったのではないかとと思われるが、電気自動車の普及とともに家庭での充電設備の導入に対する補助金などがあると、もう少し活用されるのではないかと思う。</p>	<p>情報は発信のみに留まらず、使われてこそ価値のあるものとの御指摘はその通りであり、その実現に向けた情報発信に市政全般にわたって努めてまいります。</p> <p>御指摘の環境政策の時代的变化とスピードに対応した施策展開は重要な課題と捉えておりますので、アクションプランにおける施策の検討に生かしてまいります。</p>	<p>環境部 環境政策課 資源循環課</p>

※赤字は第2回審議会からの変更箇所

No.	該当ページ	意見等の要旨	意見等に対する市の考え方	担当部課
15	P15 共生・ 共創・ 行財政	ゴール7は、横串にあたるもので、1～6とは異なり、まちの姿でもよいかと思う。ただし、「共に認め合い」というより「互いに認め合い」の方がよいと思う。	御指摘のとおり、「共に認め合い」を「互いに認め合い」と変更しました。	企画部 企画調整課
		上記意見を踏まえて、以下のとおり変更しました。		企画部 企画調整課
		【変更前】（第2回審議会） ○政策のゴール7 共に認め合い、共に創る、未来に向かって持続発展できるまち	【変更後】（第3回審議会） ○政策のゴール7 互いに認め合い 、共に創る、未来に向かって持続発展できるまち	
16	全体	—	事務局において、文言整理等の微修正を行いました。	企画部 企画調整課

※赤字は第2回審議会からの変更箇所